

# SMIC CSR REPORT 2019



千住金属工業株式会社

〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地  
TEL.03(3888)5151(代) FAX.03(3870)3032  
www.senju.com

©2019 Senju Metal Industry Co., Ltd. All rights reserved.

千住金属工業グループのCSR情報  
[www.senju.com/ja/csr/](http://www.senju.com/ja/csr/)

メールアドレス  
[web@senju.com](mailto:web@senju.com)



## 千住金属工業グループ CSR報告書



FSC®が定める責任ある森林管理の原則に基づき認証された森林からの原材料とその他管理された原材料から作られたFSC認証紙を使用しています。またインクは揮発性有機化合物を含まないNon-VOCインクを使用し、アルカリ性現像液やイソプロピルアルコールを含む湿し水が不要な東レ水なし平版®で印刷しています。



# LOOK AT THE WORLD

## CONTENTS

- 編集方針・目次 ..... 1
- トップメッセージ・経営の理念 ..... 3
- SMICグループの目指す姿とCSR ..... 5

### 特集 Safety

- Part 1** 事業活動とセーフティ
- 一体化したセーフティの徹底 ..... 7
- 製造工場におけるセーフティ ..... 9
- 間接部門におけるセーフティ ..... 9
- 社会におけるセーフティ ..... 12

### Part 2 取締役対談

- 次世代にバトンをつなぐために ..... 13

### 社会

- お客様との関わり ..... 17
- 調達先との関わり ..... 18
- 地域社会との関わり ..... 19
- 従業員との関わり ..... 21

### 環境

- 環境理念・方針 ..... 22
- エコ・ファクトリー ..... 23
- 環境への取り組み ..... 24

### マネジメント

- ガバナンス ..... 25

- 会社概要 ..... 26

#### 編集方針

千住金属工業グループの重要課題と社会的要請の高い項目について報告するよう努め、マテリアリティを特定しています。本報告書はGRIスタンダードの要求項目に沿って制作し、事業を通じて社会問題の解決に取り組んだ結果を事例として報告します。

対象期間	2018年4月1日～2019年3月31日 (一部2019年4月以降の情報も含まれます)
対象範囲	グループ会社 26社 (非連結子会社と関連会社を含む。)ただし、環境活動は別途明記
対象変動	連結子会社の増加・減少はなし
加入団体	RBA・日本溶接協会・エレクトロニクス実装学会・JEITA・JAPIA・東京経営者協会・商工会議所
発行履歴	今回:2019年10月 (前回:2018年11月)
次回発行予定	2020年10月
参考ガイドライン	GRIスタンダード・環境報告ガイドライン・ISO26000

\*GRIスタンダード対照表は弊社CSRウェブサイトに掲載予定です。

#### 免責事項

本報告書には、千住金属工業の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれていますが、これらの記述は、現時点で把握可能な情報から判断した事項及び所信に基づく見込みです。千住金属工業及びその関連会社は、本報告書に含まれる情報もしくは内容を利用することで、直接・間接的に生じた損失に関し、いかなる責任も負わないことをご了承ください。また、本報告書は、参考のために日本語の原文を英語及び中国語に訳した報告書も用意しております。日本語版と英語版・中国版に相違がある場合は、日本語版を正しいとみなし、翻訳による誤解から生じたいかなる損害についても責任を負わないことをご了承ください。



千住金属工業グループの2019年度CSRレポートをお届けいたします。

創立81周年を迎え、これから10年先、20年先…千住金属工業グループの未来をいかにつないでいくかを考える年になります。社会的責任の動向においては、2013年に施行された米国ドッド=フランク法におけるコンフリクトフリー鉱物調達、対象鉱物及び対象国を拡大させた「責任ある鉱物調達」へと変わりつつあります。また労働環境においては、自社だけでなくサプライチェーンを含んだ全体的な改善が必要となっています。

世界的に品質・調達・労働環境などの安全性が問われる昨今となり、お客様からの安全性に関する要望も寄せられております。千住金属工業グループは有用な製品を世に供給する企業として、ステークホルダーの皆さまの安心安全を第一と考え、今年度のCSRレポートは「Safety」をテーマに、お客様・従業員・社会に対して安心安全な企業でありつづける内容といたしました。

### SDGs達成に向け社会的責任を果たす

2015年に国連総会にて「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。SDGsは環境・社会・経済に関する17のゴール、169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指した非常に重要な目標です。

千住金属工業グループは経営の理念を基に、持続可能な環境・社会・経済を実現する優良企業を目指したCSR活動・企業活動を展開しております。

お客様に対しましては、ご要望に耳を傾け、高品質かつ社会・環境にやさしい製品・サービスの提供に努めております。また、紛争に関わらない安心安全な鉱物調達や、生産体制強化のための国内外における生産拠点の増強など、これからもお客様に安心して当社の製品をお使いいただくための体制を構築してまいります。

また、新たな未来社会Society5.0の実現に向け、製造設備の自動化・IoT化を推進し、従業員の作業負荷軽減や職場の環境改善に取り組んでおります。労務管理では長時間労働の抑制やハラスメント防止などを引き続き進めると

### 経営の理念

有用な製品を世に供給することで、公器としての使命を果たす。

会社は社員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である。さればまず第一に会社の発展がそのまま社員の幸福 — 物心両面の成長に直結することを念願する。他方、会社存立の基盤たる現代社会は、日々不断に会社が優れた有用な製品を世に供給することを期待している。我等は社員と社会のこの二つの立場における要求を調和充足しつつ、その過程を通じて人類の平和と進歩に寄与し、もって公器としての使命を果たすことを経営の理念とする。

然らば、この理念のもとに結集し、会社発展の推進力となり、自己の人生を十二分に開花結実させるための必要にして且つ十分なる条件は何か — いわく実力、いわく誠実、いわく闘魂……まことにこの三ヶ条こそあらゆる生活の場における三種の神器である。

またこの三条の満たされるところ、そこにはおのずから明るい職場、平和な職場、活気溢れる職場が築かれるであろう。この職場を原動力として、日に新たに日に新たに、また日に新たなる開拓者精神を推し進めるならば、あらゆる苦難を乗り越えて会社は成長発展を続けてゆくものと確信する。願わくば我々は共にこの理念を身につけ、活力あらしめ、そして我等が職場に平和と友愛の橋をかけ、明朗にして健康な生活の建設に邁進しようではないか。

昭和35年6月発表

故 佐藤千壽 名誉会長

社長在任期間	昭和35年6月～昭和53年6月
会長在任期間	昭和53年7月～平成20年5月
名誉会長在任期間	平成20年6月～平成20年10月

ともに、同一労働・同一条件・同一賃金に向けた取り組みや仕事と育児・介護の両立支援など、従業員が働きやすく活き活きと活躍できる会社づくりを行っております。

さらに、国内外の各生産拠点では、環境保護や学校施設への出張授業などを通し、地域社会の方々との交流に努め、持続可能な社会のための活動に取り組んでおります。

昨年、千住金属工業は経済産業省より「地域未来牽引企業」に選定されました。地域経済を牽引する担い手として選ばれ、身の引き締まる思いです。経済のみならず、環境・社会においても牽引できる企業を目指し、日々精進してまいります。

### SDGsとは?

持続可能な開発目標(SDGs)は、2015年9月の国連総会で採択された「私たちの世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」において示された、2030年までに達成すべき世界人類共通の目標。17の目標と169のターゲット(具体目標)で構成され、企業にはSDGsの達成に向けた積極的な役割が期待されている。



# SMICグループの目指す姿とCSR

千住金属工業グループは経営の理念を基に、お客様、従業員、調達先、地域社会、地球環境等のステークホルダーに対し常に誠実な関係を維持し、持続可能な環境・社会・経済を実現する優良企業を目指したCSR活動・企業活動を展開しています。

## ステークホルダーと共に取り組む SMICグループの優先課題

サステナビリティ報告書の国際的ガイドラインであるGRI (Global Reporting Initiative) は、これまでの網羅的な情報開示から、重要課題（マテリアルな側面）に焦点を当てた情報開示を目的として、ガイドラインを2013年5月にG4に、2016年10月にGRIスタンダードに改訂しました。千住金属工業は、経営の誠実さを「人」を通じて、ステークホルダーとのコミュニケーションやグローバル展開している姿を開示するために、RBA (Responsible Business Alliance) の行動規範に規定されている5つの側面と、月次CSR会議で報告のあった内容から、GRIが推奨する下記の4ステップ・フローに沿って、重要課題を特定しています。

### 社会全体の発展

#### 地域社会

- 事業所での事故・災害防止と周辺地域の災害支援
- 地域の文化・習慣の尊重と地域社会への貢献活動

会社と従業員の成長  
顧客満足とより良い  
社会の実現に貢献

#### お客様

- 安全・安心・安定した製品・サービスの提供
- 環境調和型製品・サービスと情報の適切な提供

ステークホルダーと共に  
より良い社会の実現のために  
取り組む

### step 1 重要な課題・事象の特定

- GRI 項目の側面や重要な RBA 自主監査項目
- 影響を及ぼす範囲の特定

### step 2 優先付け

- ステークホルダーと会社にとっての重要性評価
- 月次 CSR 会議での定性的・定量的な評価

### step 3 確認

- GRI 項目の側面の範囲・影響・期間の評価
- 経営陣による承認と開示

### step 4 見直し

- 印刷物等での配布及び開示（日本語版・英語版・中国語版）
- 月次 CSR 会議にて意見を分析・報告し次回に活用

#### 調達先

- 調達取引先の公平な選定と取引
- 企業価値の維持と社会的責任投資への対応

#### 地球環境

- 地球温暖化の防止と廃棄物発生抑制
- 紛争鉱物不使用と化学物質の排出抑制

#### 従業員

- 公正な評価・処遇・人材の育成と活用
- 労働安全衛生と心身の健康への配慮

### 経営の理念

SMIC

# 一体化したセーフティの徹底

昨今は、世界的に品質・調達・労働環境などに対する安全性が問われており、お客様から安全性に関するご要望も寄せられています。千住金属工業グループは有用な製品を世に供給する企業として、ステークホルダーの皆さまの安心安全を第一と考え、製造工場と間接部門におけるセーフティの徹底を行っています。製造工場と間接部門におけるセーフティの内容および社会に対してセーフティを提供している関連会社をご紹介します。

## 製造工場におけるセーフティ



- |                                   |                                      |                             |                                        |                                 |                                 |                             |
|-----------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|
| <b>調達</b><br>●CSR調達<br>●コンフリクトフリー | <b>倉庫</b><br>●立体自動倉庫<br>●台車型自立移動ロボット | <b>炉</b><br>●自動化に向けたロボット    | <b>棒はんだ・ビレット・インゴット</b><br>●自動化オートメーション | <b>品質管理</b><br>●重量管理・要因解析       | <b>製品安全</b><br>●分析による安全性の確保     | <b>梱包</b><br>●自動計量・梱包ロボット   |
| → 調達先との関わり <a href="#">P.18</a>   | → 自動化設備 <a href="#">P.9</a>          | → 自動化設備 <a href="#">P.9</a> |                                        | → IoT分析システム <a href="#">P.9</a> | → 分析(製品安全) <a href="#">P.10</a> | → 自動化設備 <a href="#">P.9</a> |

**5S活動**  
  
 → 5S活動 [P.9](#)

**従業員の安全**  
 → Column  
 災害時に備えた工場内のスプリンクラー設備 [P.9](#)  
 → Column  
 避難訓練・消火訓練・救命講習の実施 [P.10](#)

**BCP**  
 国内外拠点と連携したバックアップ体制の強化  
 → BCP(事業継続計画) [P.10](#)

## 間接部門におけるセーフティ

→ 間接部門におけるセーフティ [P.9-11](#)



## 製造工場におけるセーフティ

### 自動化設備

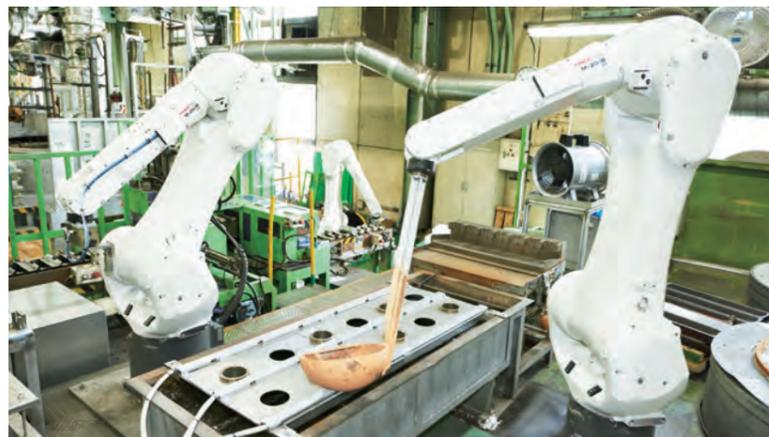
当社製品の製造や梱包、物流においては、以前は人の手が必要で、従業員にとって身体的・精神的負担になっていました。負荷軽減や安全性の向上、製造製品の品質や生産性向上のため、製造部門では自動化・ロボット化設備の導入を進めています。現在はマザー工場である栃木事業所が中心ですが、国内外の各生産拠点においても自動化・ロボット化設備の導入を精力的に進め、千住金属工業グループの次世代に向け発展・進歩していきます。



立体自動倉庫(栃木事業所物流部門)



台車型自立移動ロボット(本社物流部門)



はんだピレット自動製造ロボット(栃木事業所製造部門)

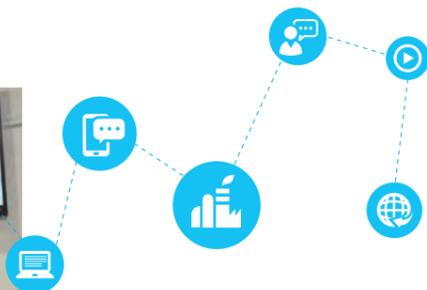
また、物流部門では、はんだ材料を高層ラックへ自動的に保管・入庫できる立体自動倉庫や、倉庫内の製品搬送を無人で行う台車型自立移動ロボットを導入し、従業員の負荷軽減と作業の効率化を図っています。



はんだボール自動計量・梱包ロボット(千住技研)

### IoT分析システム

栃木事業所の棒はんだ自動製造・自動梱包設備ではIoT分析システムを導入し、製造した棒はんだ1本1本の重量と、設備周辺の気温やはんだ槽内の温度などの情報を収集・蓄積し、分析や自動化設備とのデータ連携を行うことにより製造製品の重量を一定に保っています。今後、他の自動化設備においてもIoT分析システムの導入を計画し、高度な製品管理を行っていきます。



### 分析(製品安全)

当社製品の分析検査は、第三者機関であり千住金属工業の関連会社である産業分析センター栃木試験所で行われています。産業分析センターは千住金属工業の化学分析部門が1972年に分離独立した関連会社で、分離独立化以前より続く約70年の経験と実績に裏打ちされた技術力、そして最先端の分析設備を備え、超高精度・精密分析検査を行っています。製品分析検査の依頼を受けてから最短6時間で分析結果を出せる体制を整えており、お客様の安心・安全な製品づくりの一端を担っています。



### BCP(事業継続計画)



アメリカ・シカゴのはんだパウダー製造工場



はんだパウダー材

千住金属工業グループでは、自然災害、地震、火災、爆発、感染症などの緊急事態に備えて、各種リスクの評価・分析・対策を行い、被害を最小限にとどめ事業の継続能力を高めるためのリスクマネジメントの構築と、重要業務の早期復旧を図るための推進体制、行動計画を定めています。

また、災害などの緊急事態により生産困難な拠点が合った場合、国内外の他拠点と連携して生産が継続できるようバックアップ体制の強化を行っています。はんだボールとフラックスを製造している宮崎の千住技研、はんだボールを製造している岩手の千住電子工業に加え、2019年度にはプリフォームの製造工場を兵庫県西脇市、ソルダペーストに使われるはんだパウダー材の製造工場をアメリカのシカゴに新たに設けました。

### Column

#### 避難訓練・消火訓練・救命講習の実施

千住金属工業グループでは、地震や火災などの災害から従業員の生命を守るため、消防署や警備会社の指導のもと、避難訓練・消火訓練・救命講習(AED講習)を毎年実施しています。昨年、栃木事業所内にて当社の従業員が倒れ心肺停止状態になる事態が発生しましたが、社内で連携し迅速に心肺蘇生、AED、脈の確認、通報を行ったことで、大切な命が失われることなく救助することができました。引き続き訓練・講習を実施し、救命技能の習得を進めていきます。



栃木事業所内での人命救助の功績を賞し、真岡消防署から感謝状をいただきました。

## 間接部門におけるセーフティ

### 5S活動

職場環境の維持改善活動である5Sは、快適な職場環境を整え、業務の効率が上がり、品質・生産性・安全性の向上にもつながります。千住金属工業グループでは各拠点で編成された5S徹底推進委員が毎月職場の5S巡回を行い、指摘・改善を行っています。

5S徹底推進委員が各部署の改善点や問題点を実際に見て知ることにより、自部署の5S改善を押し進め、また5S徹底推進委員会で改善に向けた議論を行うことで、全体的なレベルアップを図ることを目的としています。

今後も千住金属工業グループ全体で5S活動を推進し、職場環境の改善を行っていきます。



### Column

#### 災害時に備えた工場内のスプリンクラー設置



千住金属工業グループでは、災害などによる火災に備え、事務所・研究棟の他に、製造工場内にもスプリンクラーを設置しています。

### 品質活動



スマートフォンやパソコンなどの電子機器、自動車、家電製品など様々な分野のお客様に、千住金属工業は材料製品を提供しています。千住金属工業では品質を、お客様のご要望を実現するための柱の一つと考え、日々工場内の品質改善活動を推進しています。また、第三者機関である産業分析センターで製品の分析検査を行い、その結果で合否判定することにより、検査における不正や偽装を防いでいます。

2018年には、自動車産業の国際的な品質マネジメントシステム規格である「ISO/TS16949」から「IATF16949」に認証を移行しました。これからも、品質向上と継続的な改善に努め、お客様にご満足いただける製品をお届けします。

## 間接部門におけるセーフティ



### 人事労務

昨今、職場におけるハラスメントや長時間労働が社会問題となっています。千住金属工業グループは、従業員のメンタルヘルス不調を招き、働く意欲そして生きる意欲を奪う行為はあってはならないと考え、その防止を労務管理上重要な課題と捉え、様々な対策・改善を進めています。具体的には、スマイルメールや自己申告制度等の社内通報システムを活用したハラスメントの防止や、勤怠管理システムによる労働時間と在社時間の把握による長時間労働の抑制・指導を行っています。これからも従業員が安心して生き生きと活躍できる職場環境づくりを推進していきます。

### 知的財産

知的財産を一言で言えば、「価値のある情報」です。研究開発の成果や製造現場での改善活動等から生まれた技術、知見、ノウハウは価値のある情報です。知的財産部門では、この価値ある情報の権利化(例えば特許化)を図ったり、秘匿化(例えばノウハウとして秘密管理)するためのサポートや支援を行っています。当社の製品をお客様に安心してお使いいただけるよう、千住金属工業グループは、自社製品の保護及び第三者の権利を侵害しない取り組みを推進し、知的財産制度を有効に活用することで、会社の持続的成長に向けた事業活動の一助となり、さらには社会に役立つ価値の創出にも貢献していきたいと考えています。



### 情報セキュリティ

千住金属工業グループでは、BCP/DR\*対策に加え、近年発生しているサイバー攻撃による被害に鑑み、情報セキュリティの管理運用を一層強化しています。昨今、サイバー攻撃に対する防御策を強化しても、100%防ぐことはできないと言われており、被害が発生した際の封じ込めや、迅速な復旧ができるように、基本的な行動計画の策定が重要とされています。従業員にルールや脅威を教育し、随時アップデートしていくことが、今後も重要だと考えています。

※DR: Disaster Recovery、災害復旧

### 業務監査

千住金属工業グループでは、リスクマネジメントと不祥事防止のために、グループ全体を対象とした内部監査(業務監査)を実施し、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでいます。業務監査部門では健全な企業コンプライアンス維持を目的として、外為法に基づいた「安全保障輸出監査」とRBA行動規範に基づいた「CSR監査」、社内外の機密情報の取り扱いに関する「情報セキュリティ監査」を国内外の全拠点(176か所)に対して実施し、2018年度は293件の是正事項を検出しました。これらは正事項は各部署にて速やかに対策を講じ、継続的なマネジメントシステムの改善へとつなげています。



## 社会におけるセーフティ

### 千住スプリンクラー



人命と財産を守る価値を、社会に提供する



ヘッド製造ライン



ヘッド生産工程 D型

会社概要	
会社名	千住スプリンクラー株式会社
本社所在地	〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地
電話番号	03(3870)5011
FAX番号	03(3881)3199
取締役社長	田中 節夫
設立年月日	1974年4月8日
資本金	100,000千円
従業員数	192名(2019年1月1日現在)
業務内容	消火装置用スプリンクラーヘッド アラームバルブ、一斉開放弁等の製造販売 高圧ガス容器用可溶栓の製造販売

1963年、国産型式承認第一号の消火用スプリンクラーヘッドの開発に成功して以来、現在でも国内トップシェアを誇るスプリンクラーヘッドや関連バルブ製品・安全栓等、社会生活の安心・安全を担う製品を提供しています。消火用スプリンクラーヘッドに融点が高い特殊はんだを使うことで、金属特性を活かした的確な温度感知の仕組みを実現し、高品質・高信頼性に寄与しています。千住金属工業グループのはんだ技術を活用したシナジー効果により、これからも人命と財産を守る最良の製品をお届けします。

### 産業分析センター



高品質・信頼性を支えるとともに、地球環境の保全・予防に貢献する

産業分析センターは、千住金属工業の化学分析部門として出発し、その後非鉄金属分析業務の分社化に伴い、1972年2月設立されました。当社は各種材料や環境問題となっている物質に関して、正確な分析データを迅速に提供しています。なかでも内分泌攪乱性や生殖毒性など人体への悪影響が懸念される物質としてRoHS指令に追加(2019

会社概要	
会社名	株式会社産業分析センター
本社所在地	〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地
電話番号	03(3881)0541
FAX番号	03(3881)0547
取締役社長	川又 勇司
設立年月日	1972年2月8日
資本金	20,000千円
従業員数	104名(2019年1月1日現在)
業務内容	材料試験・分析 はんだ付け用フラックスの特性試験 環境関連 労働者派遣事業

年7月施行 EUへの上市禁止)されたフタル酸エステル類4物質の分析データを提供しています。また、動物や人体に悪影響がある難分解性有機フッ素化合物としてREACH規則の制限対象物質に追加され、含有量がしきい値25ppb\*未満であることが求められているPFOAの分析も行っており、お客様より多くの分析要請をいただいています。これからは社会の安全と地球環境の保全・予防に貢献するため、分析領域(はんだ材料、RoHS-REACH、材料分析、環境分析)を拡げ、持続的に貢献していきます。

\*ppb: Parts Per Billion、10億分の幾つにあたるかを表示する単位

# 次世代にバトンをつなぐために

## Safety は全てにつながる

2018年12月に就任した長谷川代表取締役常務と奥野取締役が、これから100周年に向け、次の世代にどのようにバトンをつなげたいか、そして今年度のCSRレポートのメインテーマである「セーフティ」について語りました。



代表取締役常務  
長谷川 友秀

取締役  
奥野 哲也

代表取締役常務  
長谷川友秀

1982年入社。大阪営業所長、千住金属(香港)有限公司総経理を経て、2018年に代表取締役常務に就任。趣味は読書。座右の銘は「この道より我を生かす道はなし、この道を歩く」(武者小路実篤)。

取締役  
奥野哲也

1982年入社。Senju Comtek Corp. 社長、国際事業部執行役員を経て、2018年に栃木事業所長並びに取締役に就任。趣味はゴルフ。座右の銘は「謙虚に・素直に・驕らない」[Passion To Win]。

経営の理念を基に、  
公器としての使命を果たす

**司会** 新たに代表取締役、そして取締役に就任されたということで、まずは故・佐藤千壽名誉会長がつくれた経営の理念を引き継ぎ、それを引っ張っていく立場としてのお考えと想いをお聞かせください。

**長谷川** 経営の理念は約60年前に策定され、それが色褪せることなく現在まで会社の根幹として当社をまとめてきました。その経営の理念に沿って当社は発展してきたので、策定された名誉会長の偉大さを感じています。私が入社した時はまだ当社はグローバルに活躍する企業とは言えませんが、与えられた役割を誠実に諦めず果たしてきたからこそ、結果的に世界に有用な製品を供給し、世界の一流企業様とお付き合いできるまでになったと思っています。これからも、社員には経営の理念を念頭に仕事に励んでもらい、100周年に向かっていきたいですね。

**司会** 奥野取締役はいかがでしょう。

**奥野** 昨年、当社のマザー工場である栃木事業所の所長に就き、製造部門全体を統べる責任者になりましたが、改めて当社の根幹は製造であると感じています。経営の理念にある「有用な製品を世に供給すること」の基本は、時代に沿って世の中の役に立つものを作り続けることです。千住金属工業グループの長い歴史の中で培ってきた本当に良いものは継続・継承していく一方で、工場にいると時代や環境の変化に伴い変えなければいけないものがたくさんあると感じています。

**司会** 政府では“Society5.0”を提唱しています。AIやIoTなどのテクノロジーを活用した社会となりますが、千住金属工業として100周年も見据えて、どのように発展していきたいと考えていますか。

**長谷川** はんだを使用する対象物が大きく変わってきたと実感しています。私たちが入社した当時は、テレビ等の家電製品にはんだが多く使われていましたが、その後はパソコンやスマートフォンなどの半導体業界に広がりました。今後はEV(電気自動車)やAI・IoT関連の産業が中心になります。

今まで電気駆動ではなかったものが電子化され、CPU(中央処理装置)が搭載されるとなると、当社は新たな業界に参入することになります。すると、これまでの業界ルールをはじめ、開発や製造における基準が変わってきます。当社がはんだを含む合金を製造していくことには変わりはありませんが、お客様からのご要望の本質を捉えるため、相当勉強をしていかないといけないと思っています。営業部門や開発部門が積極的に情報を得る必要があるので、社内で勉強の機会を設けています。

**奥野** 業界が変わられたお客様もいらっしゃいますからね。例えば今まで車を作っていなかった会社が車を作るとか。お客様の層が広がり、当社のはんだ製品の使い方やご要望が変わってきているのは工場側でも感じています。様々な分野から新しい技術がどんどん出てきますので、それに対応する製品の開発が必要になります。

Society5.0とされるAIやIoT、ロボット化等は、全部そのまま当社の工場に当てはまる話なんですよね。工場側もAIやIoT、ロボットなどの新しい技術を率先して勉強し、製造現場に取り入れ始めています。業界で先行して導入し、製造現場の付加価値を高めることが重要だと考えています。

品質・安全性を高め、  
お客様へセーフティを提供する

**司会** 今年のCSRレポートのメインテーマは「セーフティ」ですが、まず品質・安全性に対するお考えや取り組みについてお聞かせください。



時代や環境の変化に伴い、  
変えていかなければいけないもの  
を変えていく

**長谷川** 当社は47年前に関連会社である産業分析センターを設立しました。従来、内部で検査する工程を第三者機関である産業分析センターに一任することで、お客様へ高品質で安全な製品の供給に努めてきました。

**奥野** 報道でも品質検査の信頼性に対する関心が高まっていますが、社内確認のみではなく、第三者に公正に検査してもらうことで、お客様にとっても安心していただけるのではと感じています。

また品質を高めるためには、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)をしっかり行うことも重要です。取り組むことで気持ちも引き締め、職場内の労働災害も減り、不純物等が混入しないことで製品の品質も上がります。当社では20年程前から5Sに取り組み始め、この10年程でさらに徹底したことで、5Sが社内に根付いていると思います。

新しい取り組みとしてはロボット化等ですね。昔はいわゆる3K(きつい、汚い、危険)や重い・熱いなど労働環境が悪い職場もありましたが、今では5Sを徹底し、ロボット化や自動化設備を導入することで、人にやさしい工場づくりを進めています。社長をはじめ経営陣は、ロボット化や自動化に向けて投資をする姿勢で実行していますので、工場はそれを無駄にしないよう取り組んでいます。

**司会** お客様への安定供給の面ではいかがでしょうか。

**奥野** 安定供給という意味では、2011年の東日本大震災が大きなきっかけとなっています。災害の復旧だけではなく、BCP(事業継続計画)の考え方が世の中に一気に浸透しましたが、当社ではリスク管理の徹底や、複数購買または複数工場での調達、さらにサプライヤーの健全性を確認しています。

**長谷川** 今年は関西にプリフォームの製造工場を、アメリカにパウダーの製造工場を新たに設けました。現在はサプライチェーンも含め、世界中のお客様のご要望に応えられるよう常に見直し、供給体制を整えています。

責任ある調達やリサイクルを通じて  
社会に対するセーフティに応える

**司会** はんだの材料に天然鉱物を多く使用していますが、どのような取り組みを行っているかお聞かせください。

**奥野** 例えば錫ですと、当社ははんだメーカーで唯一の企業としてRBA(Responsible Business Alliance)に加盟しており、紛争地域の材料は使わない「コンフリクトフリー」を宣言しました。また購買の担当者が調達先である世界中の錫製錬所に出向き定期監査を行い、安全で安心なサプライチェーンの確立に取り組んでいます。

**長谷川** 有限資源を使用する責任としては、40年程前からはんだをリサイクルする高橋合金と連携し、資源の有効活用に努めてきました。最近では、時代が環境を意識したものづくりをする流れなので、お客様からリサイクル材を使ったはんだ製品のご

要望も増えていますね。当社が販売したはんだを回収してリサイクルできる体制を社内外に確立しているのは、お客様並びに社会のニーズに応えられていると感じています。

**奥野** 回収したはんだには不純物や色々な金属が入っていますので、そのままではリサイクルできません。高橋合金では、製錬所から購入している錫と同様、あるいはより高純度の錫材料を製造できる技術を確立しており、それに伴い生産量も増えてきました。

従業員の健康と安全、  
そして活躍できる環境へ

**司会** 「従業員に対してのセーフティ」として、従業員の健康と安全、安心して働ける環境についてお聞かせください。

**長谷川** 社員の健康維持の一環として、がん保険料や医療費の会社負担制度などを設けています。また、昨年はこちらまでの社員寮を男女共に新たにし、社員食堂の充実など働きやすい職場環境づくりに重視して取り組んでいます。また、子育てや介護のための時短勤務、帯同休職などの制度を設けており、働きやすい環境、社員皆がやりがいを持てる企業を目指し続けています。

**奥野** 昨今、政府が掲げている「働き方改革」に沿って、明確に残業の上限を決め、日ごと月ごとに勤怠管理を行い、状況に応じて人員配置転換をするなど長時間労働にならないよう取り組んでいます。

一方で、ビジネス面では生産量が増えていますので、働き方改革に相反しないためには設備の自動化やロボット化が不可欠と考えています。また、工場内におけるリスク状況を洗い直し、安全と災害対策を進めており、当社の関連会

社の製品でもあるスプリンクラーを全工場に設置するプロジェクトに取り組んでいるところ

**司会** この1年は経営に関しても大きな決断をされましたが。

**長谷川** 経営面における一番大きな改革として、千住金属工業グループのホールディングス化による組織改編を行います。千住金属工業の傘下にこれまでの子会社及び関連会社を置くことにより、人的リソースや資本・資金の有効活用を行うなど、大きな体制の変革に取り組んでいます。

**奥野** ホールディングス化により、千住金属工業グループ内での同一労働・同一条件・同一賃金の推進や、他拠点同士の交流やキャリアアップの機会も増え、設備投資もしやすくなります。これからの100周年に向けた重要な取り組みです。

**長谷川** 多様性もますます重要になります。現在、海外に14拠点ありますが、日本からの出向者による運営から現地社員が主体となる、真の意味での現地化を推進していく必要があります。また、女性社員が働きやすく、やる気が出てやりがいのある職場を目指していきます。当社には佐藤有香取締役がおられることで、国内拠点における意識は随分変わりましたが、海外拠点と比べるとまだまだ女性社員の活躍が足りない部分もあります。今後は性別や国籍、年齢などにかかわらず、一人ひとりが活躍できる職場環境・体制を整えていきます。

**司会** お二人のお話から、千住金属工業のセーフティに関するお考え・取り組みと、100周年に向けた想いが伝わりました。本日はありがとうございました。

ホールディングス化により、  
人的資源を有効活用し、一人ひとりが  
活躍できる職場を目指す



Society 5.0 (ソサエティ 5.0) とは?

狩猟社会(Society 1.0)から始まり、農耕社会(2.0)、工業社会(3.0)、情報社会(4.0)に続く次の世代。AIやIoTなどのテクノロジーの活用により、世界中から集まる様々な情報(ビッグデータ)を解析・共有・判断することで、医療・介護の地域格差や労働力不足などの社会的課題の解決と経済発展を両立する、内閣府が提唱する我が国が目指している新たな未来社会のこと。



内閣府 Society 5.0 ([https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/index.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)) より加工して作成

## お客様との関わり

参考: 社会に対する責任  
[https://jp.senju.com/ja/csr/social\\_responsibility/](https://jp.senju.com/ja/csr/social_responsibility/)



千住金属工業グループは、安心して安全な製品の開発と製造を行っております。また、製品情報の正確で迅速な提供を目的に、営業担当部門・サービス担当部門によるお客様対応や展示会・イベントを通じて最新情報の発信を心掛けています。また、ウェブサイトにお問い合わせ窓口を開設しています。

### 品質・安全性方針

千住金属工業グループは、「経営の理念」のもと、以下の品質・安全性方針を定めています。

1. 関連法規制及び顧客要求を遵守し、品質や安全性に配慮した製品・サービスの供給を通して顧客満足の向上を図ります。
2. 定められた品質マニュアルに従って、品質マネジメントシステムを構築し、実施し、維持するとともに、その有効性を継続的に改善します。
3. 品質方針・品質目標を定めて活動するとともに、定期的にまた必要に応じてレビューし、マネジメントシステムの改善の機会(間隔、頻度、場面)についての評価も行います。
4. 品質マネジメントシステムの変更の必要性も評価し、変更が必要な場合は、経営の理念に照らして適切性を維持するためにレビューします。

### 安全保障輸出管理体制

千住金属工業グループは、国際平和及び安全の維持、並びに大量破壊兵器等不拡散及び通常兵器の過度の蓄積防止の観点から、外国為替及び外国貿易法並びに米国商務省及び各国の輸出管理規制等により規制される貨物の輸出及び技術の提供について、法令等を違反してこれらを行わないこと並びに法令等遵守及び適切な輸出管理を実施するため、代表取締役社長を安全保障輸出管理の最高責任者に据えた安全保障輸出管理本

部を設置し、輸出管理体制の整備と充実を図ることを基本方針としています。本基本方針に従い、「安全保障輸出管理規定」を制定し、これを経済産業省へ届け出し、毎年内部監査を実施することで規定遵守を維持しています。千住金属工業は、経済産業省より安全保障貿易管理に係る自主管理体制を整備している企業として認知されています。

### TOPICS

#### インテルコーポレーションよりSCQI賞を受賞

千住金属工業株式会社は2019年3月7日、インテルコーポレーションよりサプライヤー・コンテンツ・クオリティ・インクルーブメント (SCQI) 賞を受賞しました。

SCQI賞は、優れた成績を収めたサプライヤー企業に贈られる最も名誉ある賞で、2018年度は、約20,000社に及ぶサプライヤーの中より、6社のみが受賞しています。今回の受賞は、インテルの目標に対し、卓越した品質と成績を達成したことによるものです。千住金属工業は、インテルの成功に欠かせないはんだ材料(はんだボール、フラックス、ペースト、棒、線)を供給しています。



## 調達先との関わり



千住金属工業グループは、社会的紛争に関与しない鉱物調達など、安心して安全なサプライチェーンの確立に取り組んでいます。

### コンフリクトフリーへの軌跡

2011年1月にRBA (Responsible Business Alliance) に加盟し、電子業界のお客様と密接な関係を構築してまいりました。2014年からはRMI (Responsible Minerals Initiative) 会員として、製錬所に対しRMAP (Responsible Minerals Assurance Process) の受審と第三者認証取得を積極的に働きかけ、2015年2月、調達先の製錬所が全てRMAP認定されたことを報告しました。SEC

(米国証券取引委員会) 最終規則へのより厳密な対応を要求される3年目以降は、引き続き全ての調達先製錬所にRMAP認定の更新を呼びかけ、千住金属工業の棒はんだ・やに入りはんだ・プリフォーム・アノード・ペースト・ボールなどの商品の安全で安心なサプライチェーンの持続を目指してまいります。



### 調達活動

千住金属工業は、購買方針としての基本姿勢(取引先に対して礼儀を重んじ、公平かつ誠実な調達)と、取引先との調達におけるCSR調達方針を明示しています。また、調達取引先に求める基本姿勢として、ISO9001・ISO14001要求事項とRBAが規定するサプライチェーン・アセスメン

トのガイドラインを参考に14項目をお願いしています。国内外の取引先への監査活動は、年間計画に沿って調達部門と関連する開発と製造部門が実施しています。2018年度も、国内外の取引先にサプライチェーン・アセスメントにご協力いただき、問題のないことを確認しています。

#### CSR調達方針

- ① 千住金属工業株式会社「品質・安全性方針」
- ② 千住金属工業株式会社「環境方針」
- ③ 千住金属工業株式会社「購買方針」
- ④ 千住金属工業株式会社「調達取引先に求める基本姿勢」
- ⑤ 納入品に対して配慮戴きたい IATF16949※の要求事項
- ⑥ 納入品に対して配慮戴きたい環境管理上の要望事項

※ IATF16949: 自動車産業の国際的な品質マネジメントシステム規格



ポーランドのリサイクル製錬所 Fenix Metals 社への訪問

#### 調達取引先に求める基本姿勢

- ① 法令・社会規範の遵守
- ② 健全な事業経営の推進
- ③ 品質・納期・安定供給の重視
- ④ 事業継続計画 (BCP) の重視
- ⑤ 環境への配慮
- ⑥ 社会的紛争がある地域からの調達の禁止
- ⑦ VE (Value Engineering) 活動の重視
- ⑧ 情報提供の重視
- ⑨ 資材調達期間短縮取組の重視
- ⑩ 機密の厳守
- ⑪ IT活用推進の重視
- ⑫ 情報セキュリティ
- ⑬ 反社会的勢力の排除
- ⑭ 社会貢献

## 地域社会との関わり



千住金属工業グループは国内外の各拠点で、文化・教育支援や環境保全活動等を通じて、地域社会に貢献する取り組みを積極的に行っています。

### 児童養護施設への訪問と寄付 【実施日／2018年10月8日】(Senju (Thailand) Co., Ltd.)

「The Orphanage Foundation of Thailand Directions Save」は1974年に設立された、人種を問わず身寄りのない子どもに教育を行うことで社会犯罪の発生を予防するとともに、子どもたちが良き市民となることを支援する団体です。Senju (Thailand) Co., Ltd.と合弁先企業のThai Solder Industry Corp., Ltd.は同団体の趣旨に賛同し、団体が運営している児童養護施設へ訪問し、食料品などの寄付を行いました。



### 地元小学校へスマートテレビの寄付とエコロジー教室 【実施日／2018年12月17日】(Senju Solder (Phils.) Inc.)

Senju Solder (Phils.) Inc. では、フィリピンの将来を担う子どもたちのために、地元小学校へ教育環境の向上を目的としたe-Learning用スマートテレビの寄付と、環境保護や5Sなど様々な出張授業を2012年から毎年行っています。

2018年は、Sta. Cruz Elementary Schoolへスマートテレビの寄付と「ごみの分別とリサイクルの重要性」について授業を行いました。



### Zoo Negara (マレーシア国立動物園) での清掃活動 【実施日／2018年10月20日】(Senju (Malaysia) SDN. BHD)

マレーシアのクアラルンプール市内にある国立動物園Zoo Negaraは、地元のNGO団体「Malaysian Zoological Society」によって運営されており、企業からの援助やボランティアの人々の手により支えられています。Senju (Malaysia) SDN. BHDは同団体への支援として、動物園内の清掃ボランティアに17名が参加しました。園内や動物の檻の中の清掃やペンキ塗り、餌の準備などを動物園スタッフの指導のもと、精力的に行いました。



### 身体障がい児とのコミュニケーションボランティア 【実施日／2019年3月16日】(台湾千住電子股份有限公司、日商千住金属工業股份有限公司 高雄分公司)

身体に障がいのある子どもとその家族を支援している台湾の社会福祉団体「財団法人天使心家族社会福利基金會」と高雄市政府社会局共催のコミュニケーションボランティアに、台湾千住電子と高雄分公司から58名が参加しました。高雄市の勞工公園で、子どもたちと一緒に園内の散歩やスケッチを楽しみました。

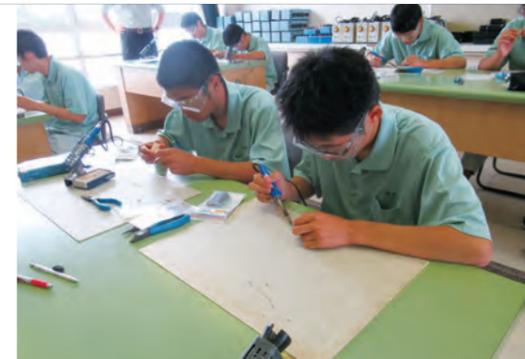


## ものづくり教室

千住金属工業では、ものづくりへの関心や興味を高めるため、2018年度は

- 地元工業高校へのキャリア形成支援(はんだ付け授業)
- 「朝日新聞社(おしごとくはくぶん)×新宿高島屋」出展(はんだ付けワークショップの実施)
- 「足立ものづくりフェスタ」出展
- 太陽誘電「ものづくり教室」協賛
- TDK歴史みらい館「エレクトロニクス体験教室」協賛

など、はんだ付け教室の実施やものづくり教室への協賛を行いました。



### ホタルが生育できる水辺環境の整備 【実施日／2018年6月2日】(栃木事業所)

栃木事業所では、真岡市環境課主催のボランティア団体「もおか環境パートナーシップ会議」に加盟し、1年を通して真岡市の自然保護・里山づくりに協力しています。2018年6月には栃木事業所から10名が参加し、地元の自然公園内の水辺にホタルが生育できるよう、ザリガニの駆除や植栽など水辺環境の整備を行いました。



### 地元森林保護区の保全活動 【実施日／2018年6月18日】(Senju Comtek Corp.)

Senju Comtek Corp.のシカゴ工場があるイリノイ州のNPO団体「Preservation Foundation of the Lake County Forest Preserves」では、地元の森林保護区「Grant Woods Forest Preserve」に生息している在来種を保護するため、外来種を駆除する活動を行っています。Senju Comtek Corp.は、この活動に賛同し、シカゴ工場の社員とその家族8名が森林保護区内の保全活動を行いました。



### 竹林整備 【実施日／2018年4月22日】(千住システムテクノロジー)

千住システムテクノロジーがある富山県富山市のNPO団体「さんたろう倶楽部」は、地元の里山再生に取り組んでいます。毎年春に、呉羽丘陵にある竹林の整備のボランティアを募っており、千住システムテクノロジーからも5名が参加し、生い茂った竹や雑木の伐採を行いました。



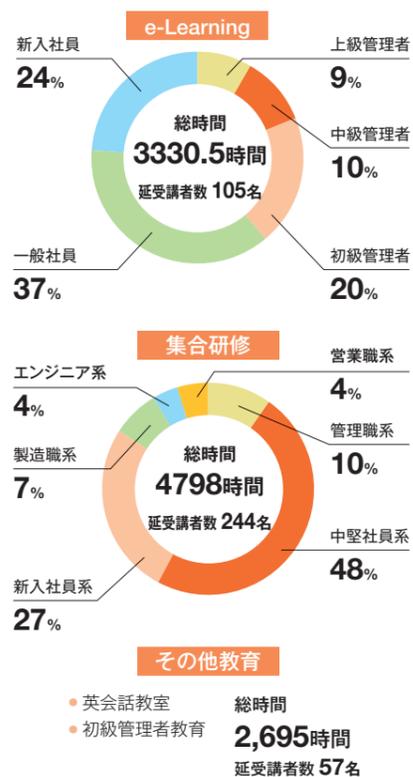
## 従業員との関わり



千住金属工業グループは、従業員のワークライフバランスに配慮し、多様性の尊重や健康維持の推進、人材の育成に力を入れています。

### 社員教育

千住金属工業の教育基本方針は、全従業員が絶えず新しい知識の修得に努め、広い視野を持って合理的な判断ができる人を養成することを目指しています。2018年度は、e-Learning・集合研修・その他教育を合わせて、延406名の受講者が、延10,823.5時間受講しました。製造に携わる社員は、現場での改善研修を受講し、研修で学んだことの報告会も開催しました。



### ダイバーシティ勉強会

千住金属工業では、様々な違いを尊重し「違い」を積極的に活かすことで、変化し続けるビジネス環境や多様化する顧客ニーズに効果的に対応させること、そして社員が固有な能力を発揮するため、その可能性を信じることで、「幸せを感じ、より長く、安心して、働きがいのある職場を実現する」ことを目的に、ダイバーシティ勉強会を実施しています。2018年度は、全6回56名が参加しました。



### 所定労働時間短縮の受入れ

育児・介護休業法による小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者の措置(努力義務)にかかわらず、当社は小学校入学後の子を持つ従業員の申し出による所定労働時間短縮の措置を講じています。実際に小学生の子を持つ女性従業員の多くが利用し、子育てとキャリアの両立を支援しています。

### 従業員の健康維持

各種制度	頻度・期間	内容
健康管理	一般健康診断	1回/年 従業員に対し一般健康診断または生活習慣病健診を実施
	生活習慣病健診	2回/年
	特殊健康診断	2回/年 人体に害のある業務に従事する従業員に対し、特別の項目について健康診断を実施
福利厚生	がん保険制度	25歳以上 がん保険に社員を加入させ保険料を会社が負担することで、社員の不慮のがん罹病による負担を軽減
	医療費会社負担制度	都度 社員の私傷病の治療に要する医療費の一部を会社が負担
	相談室設置	随時 外部カウンセリングによる職場や仕事に関する悩み相談の実施

## 環境理念・方針

### 環境理念

当社は、地球環境保全が人類共通の使命であることを認識しています。当社は、この使命のもとに、持続可能な社会の実現に向け、自然と事業活動との調和を図り、豊かな自然と多彩な生態系を守ることに全力を尽くします。

### 環境方針

当社は、環境理念を全世界のSMICグループに適用し、持続可能な社会の発展のために、効果的な環境活動を計画的に全員参加で推進します。

- 環境関連法規制の遵守にとどまらず、化学物質管理など必要な自主基準を定め、管理水準の向上を図ります。また、それぞれの地域や行政との環境に関する同意事項を遵守します。
- 当社は、事業活動が地域だけではなく、地球環境の課題に関連していることを認識しており、以下4項目を重点テーマとして環境行動計画を立案し、継続的な環境負荷低減に向けた活動を実践いたします。
  - 地球温暖化防止のために、省エネルギー及び温室効果ガスの排出削減に努めます。
  - 地球の資源を守るために、省資源化と廃棄物の発生抑制・再使用・再資源化を推進し、廃棄物の削減に努めます。
  - 環境と健康を守るために、環境負荷の大きな化学物質の使用量の削減と、使用の禁止に努めます。
  - 地球上の野生生物・森林・海洋などの生態系を保全し、生物の多様性を確保するために、植林など自然保護活動に努めます。
- 環境配慮設計によって、さまざまなライフステージに応じた環境配慮型製品を創出・供給し、社会に貢献します。また、これらに関わる調達先への要請や、情報を開示します。
- 環境マネジメントシステムと品質マネジメントシステムを効果的に活用し、目標で管理、教育で徹底、監査で確認して環境パフォーマンスの継続的改善を図り、環境負荷低減と汚染の予防に努めます。
- 地域社会との環境活動のコミュニケーションを図り、情報を開示すると共に地域の環境保全活動に積極的に参画する、良き「企業市民」を目指します。
- 環境方針・環境目的・目標を設定し、定期的かつ必要に応じて見直します。

千住金属工業株式会社  
代表取締役社長 鈴木 良一

# エコ・ファクトリー

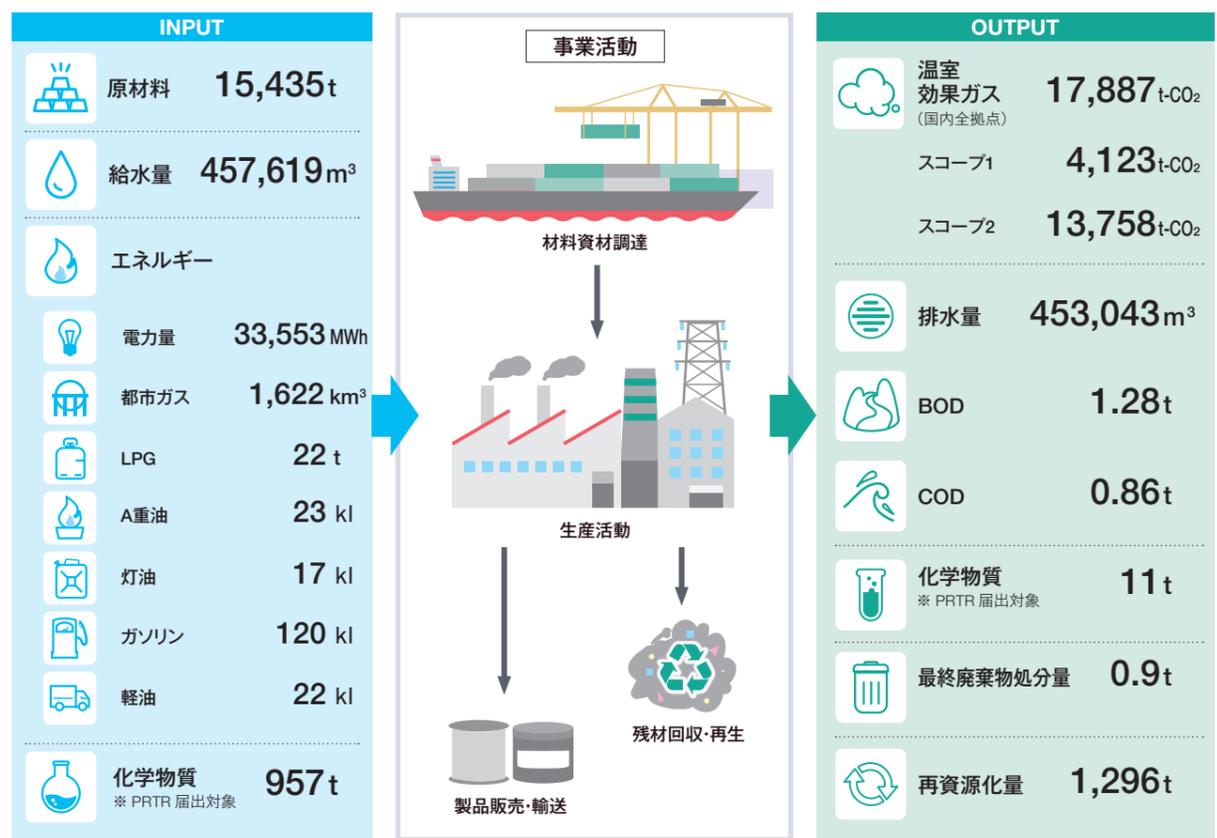


千住金属工業グループは、製品の開発・製造だけでなく、環境法規制遵守と環境汚染リスクの低減に加えて、省エネルギーや3R(廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化)活動を推進し、環境に配慮した生産活動を行っています。

## 地球温暖化防止 —2018年度の事業活動における環境への排出量—

事業活動に伴う環境負荷を定量的に監視、計測することで、使用したエネルギー量と排出量などのINPUTとOUTPUT情報を把握し、省エネルギー化、廃棄物の発生抑制や再利用、再資源化、特に定める化学物質使用量の削減などの環境改善活動を実

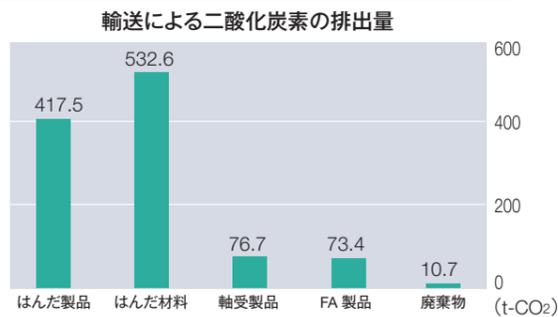
施しています。2018年度の国内全拠点のGHG(温室効果ガス)は、目標値2011年比-2%に対して、-4.3%(総排出量17,887トン)を達成しました。



国内全拠点の大半を占める栃木事業所のインプット・アウトプット図

## 輸送による二酸化炭素の排出量

2018年の物流における二酸化炭素の排出量は右記のとおりです。国内の貨物の年間委託輸送量を製品のカテゴリー別に輸送区間と距離から算出し、スコープ3で要求されている項目のモニタリングを行っています。また、従業員の通勤に関する二酸化炭素排出量についてもモニタリングを行っています。



# 環境への取り組み



千住金属工業グループでは、地球環境に配慮した、省エネルギー化を実現する独自の環境対応設備やエコプロダクツを開発しています。今後もさらに省エネルギー化を推進します。

## 環境対応設備

### ● 洗浄液の廃液リサイクル

栃木事業所にある軸受製造・研究部では、製品の洗浄に使用している炭素水素系洗浄液の廃液を蒸留再生装置にてリサイクルしています。廃液の約90%をリサイクルして再利用しています。



### ● 電力モニタリングの活用

千住金属工業グループでは、電気使用量を収集・集計し、目で見えるグラフでモニタリングしています。稼働日の電気使用量と気温の関係をグラフ化することで、夏は冷房・冬は暖房に電力を多く使用していることや、一週間の稼働日でも電気使用量のバラツキが、電力系統別にあることがわかり、対策を施すことができます。

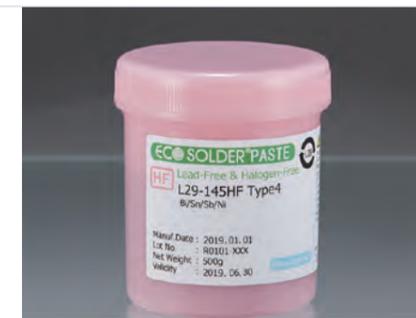
本社と栃木事業所では、従業員への電力削減の意識づけを目的に、大型モニターで電力使用状況を表示しています。



## エコプロダクツ

千住金属工業は、はんだ材料・はんだ付け装置・すべり軸受など、全ての製品を対象に環境負荷をより低減すべく、環境配慮型製品の開発に力を入れています。2001年に開発された鉛フリーはんだ M705が業界標準として採用されてからも、常に経営の理念を忘れずに様々な使用方法を考慮し、新たな価値を創造する製品を開発し続けています。

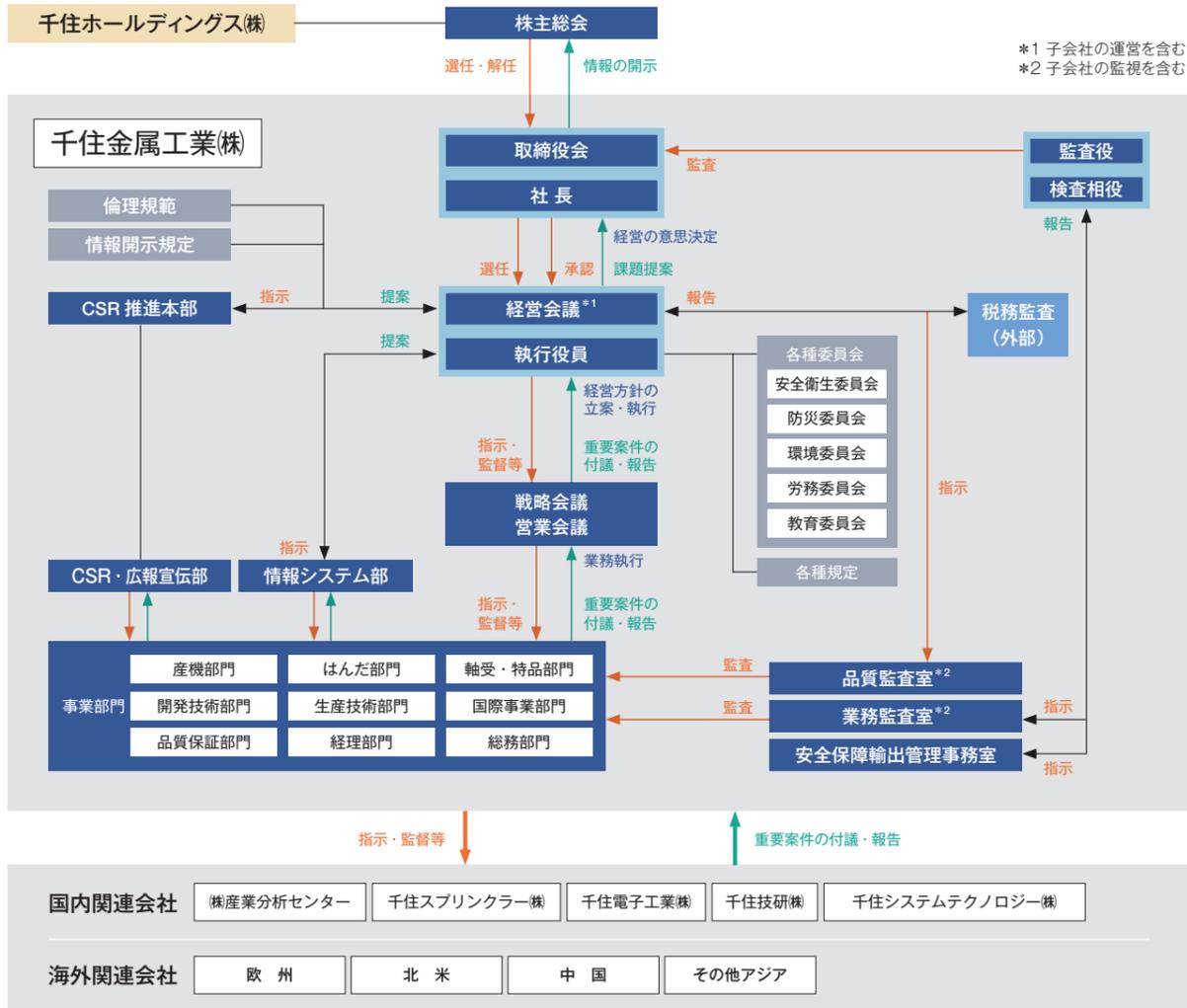
近年ではCO<sub>2</sub>排出量を抑えるべく、M705より約50℃も低い温度ではんだ付けができ、耐落下衝撃性と耐熱疲労性を兼ね備えた溶剤ペースト「L29-145HF」を発表しました。



# ガバナンス

千住金属工業は、法令に基づく株主総会・取締役会に加え、監査役・検査相役や税務監査の配置とCSR推進本部・経営会議・戦略会議の整備などにより、ガバナンスの強化に努めています。

## コーポレートガバナンス



**取締役会**  
取締役5名と監査役1名、検査相役1名で構成され、関係法令及び定款の定めるところに従い、千住金属工業経営管理の最高最終の意思決定機関として、執行役員の任免と経営会議からの上程の決議を行います。

**経営会議**  
取締役、執行役員等により構成され、法定事項を審議するとともに、会社業務執行上の重要な事項を決定もしくは承認します。また、取締役会が審議決定すべき業務執行に関する事項については取締役会に上程します。

**監査役・検査相役**  
監査役1名と検査相役1名を選任しています。取締役の職務の執行を含む日常の経営活動の監査を行っています。監査役は、取締役会に出席し、違法または著しく不当な決議がなされることを防止する責務を果たすとともに法令に準拠した活動を行っています。

**不正防止**  
従業員就業規則にてコンプライアンスの重要性を明文化し、従業員はこれらの諸規則を誠実に守り、会社の秩序保持に努めています。また、千住金属工業のCSR基本方針《公正取引・倫理》及びCSR実践目標の《倫理》においても、腐敗を防止するために贈収賄の行為を禁じています。

## 千住金属工業株式会社

SENJU METAL INDUSTRY CO., LTD.

DUNS# 690663091

設立：1938年4月15日

本社所在地：〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地

代表取締役社長：鈴木 良一

### 事業内容

- 金属の溶解、合金、鋳造、展伸、加工品の製造・販売
- 金属の粉末及び軸受の製造・販売
- はんだ付け用溶剤並びに接着剤の製造・販売
- はんだ付け装置の製造・販売
- 消火装置部品の製造・販売(関連会社事業)
- 前記に関連する機械設備の製造・販売

### 事業規模(単体)

売上高：58,060百万円  
(2018年4月1日～2019年3月31日)  
資本金：400百万円  
(2019年3月31日現在)

### 国内海外拠点数

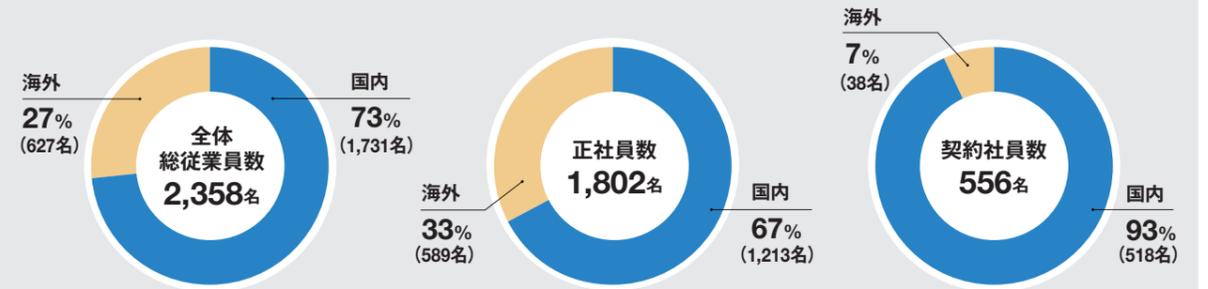
日本：20ヶ所(うち製造拠点8ヶ所)  
海外：32ヶ所(うち製造拠点15ヶ所)  
※2019年3月31日現在

### 事業展開している国

タイ、チェコ、ドイツ、フィリピン、アメリカ、マレーシア、メキシコ、韓国、台湾、中国、(香港)  
(国内主要納入先：570社/海外主要納入先：1,050社)

## SMICグループの従業員

### 国内海外従業員数比率



### 男女比率

